

氏名 林田 洋一

2000年 農林水産省入省  
2001年 独立行政法人 農業工学研究所  
2021年 (国研) 農研機構 農村工学研究部門  
施設工学研究領域 施設整備グループ 上級研究員  
2022年 (国研) 農研機構 農村工学研究部門  
研究推進部 研究推進室 行政連携調整役  
2024年 (国研) 農研機構 農村工学研究部門  
施設工学研究領域 施設整備グループ グループ長補佐



## 研究者の横顔

### ◇自己紹介

2000年に就職して以来、農業用ダム、特にフィルダム（アースダム、ロックフィルダム）の構造に関する研究に従事してきました。2022年からの2年間、研究部門の管理・運営に携わる部署に配属され、2024年4月に施設工学研究領域 施設整備グループに異動となりました。直近の10年ほどは、主に農業用ダムの耐震性能照査に関する研究に従事しました。今後も、農業用ダムを対象とした研究を実施していきたいと考えています。



アースダム

### ◇農業用ダムの安全性評価をとおして

2012年度から始まった国営造成農業用ダムの安全性評価に携わらせて頂き、日本各地の農業用ダムでの現地調査および安全性評価委員会に参加しました。その中で、型式の異なる数多くのダムに接する機会を頂き、ダムは規格化された画一的な構造物ではなく、個々の条件に応じ、調査、設計、施工がオーダーメイドで行われていることを、改めて認識しました。基本的な考え方等は設計基準として取りまとめられていますが、個々の地形・地質条件、材料や施工条件といった技術的な課題だけでなく、築造当時の社会的背景に応じ、ダムの安全性や信頼性を高めるための創意工夫がなされており、技術者の熱意や使命感のようなものを強く感じました。



ロックフィルダム



重力式コンクリートダム

### ◇リスクリングと技術継承

DX等を背景に、リスクリングの取組が推進されていますが、年代的にも、スキル・技術的にも、自分はその対象なのかなと感じています。ダムの建設が盛んな時代の技術者は、実地で技術を身に付け、創意工夫を行うための素地を作り上げたのだと思います。私自身、新設のダム現場に関わった経験が乏しいため、安全性評価委員会での経験豊かな委員の先生方のご発言が大変勉強になりました。今後、ダム技術を実地で習得することがますます困難になるのではないかと思います。このような社会的背景の中、デジタル技術等を活用した技術の継承について、自分自身がリスクリングに取組む中で、手探り状態ではありますが、模索していければ良いなと考えています。